

# 授業評価結果に基づくFD活動事例

— 学生による授業評価結果に対する教員の自己評価の質的分析 —

杉田由仁 吉田文子 田淵和子 依田純子 平田良江 小林美雪 流石ゆり子  
(山梨県立大学看護学部)

## 1. はじめに

本学では、学生授業評価結果に対する教員のふりかえり(自己評価)を「計画・実行状況」→「授業状況の把握」→「今後の改善点」というPDCAサイクルに基づく様式の「科目別自己評価用紙」を活用して行っている。PDCAサイクルの考え方においては、単に計画にのっとった実行をするだけではなく、実行後に「評価(Check)」活動および「改善(Act)」活動を実施し、客観的な検証を行うことにより、具体的な改善方法を見つけ出し、それを次のプランニングに的確に反映させ、内容の向上(スパイラルアップ)をしていくことになるので「計画(Plan)」を立てることが最重要ステップであると言える。そこで、学生の満足度が高い科目においては、科目担当者によってどのような改善のプランニングが行われているのかを分析し、授業改善に効果的なプランニングの特徴について考察を試みることにした。

## 2. 目的

PDCAサイクルにおける「的確なプランニングの特徴」についての考察結果をもとに、教員は自らのプランニング内容と比較・対照を行い、内容の向上(スパイラルアップ)をさせていくためには、どのようなプランニングを行うべきか内省し、具体的な授業改善の方向性について明らかにする。

## 3. 方法

今回は「看護学部学生の総合的満足度が高い授業(受講生10名以上で評価平均点4.4以上の授業)」を分析対象として取り上げ、当該科目の担当者が的確なプランニングを行うために、1)現時点での授業実践における問題点としてどのような問題を取り上げて計画・実践しているか、2)過去の指導事例のふりかえりからどのような活動内容を計画・実践しているか、3)今後の展望や予測を洗い出し、どのような活動内容を計画・実践しているか、という3点から当該教員の記述内容について質的に分析を行う。

分析および検討の具体的手順は次の通りである。

**Step 1:** 看護学部FD委員(7名)が個別に「学生の総合的満足度が高い授業」の担当者から提出された自己評価用紙の記述内容を、「分析シート」を活用して上記1)~3)の観点から吟味し「的確なプランニングの特徴」を抽出して記述する。

**Step 2:** 各委員から提出された分析シートを科目担当者別に一覧にして、個々の科目について抽出された記述内容についてFD委員(7名)で協議を行い「共通性の高い内容」を「的確なプランニングの実例」として整理・統合する。

**Step 3:** 「的確なプランニングの実例」に対する各委員のコメントを、分析の担当者が類型化し「特に参考になる内容」として項目化する。項目化された内容を、分類・整理・統合することにより「プランニングのポイント」として再抽出し、FD委員(7名)により、再吟味を行う。

**Step 4:** 看護学部全教員は、FD委員会より提供された分析結果に基づき、自らのプランニング内容と比較・対照を行い、内容の向上(スパイラルアップ)をさせていくためには、どのようなプランニングを行うべきか内省する。また「プランニングのポイント」を重点項目として、自己の授業改善について具体的な検討を行う。

#### 4. 分析作業および報告に関わる日程

平成 21 年 9 月下旬 前期授業評価結果表・科目別自己評価用紙の配布

10 月 30 日 「科目別自己評価用紙」提出期限

当該科目提出日～11 月 3 日 看護学部FD委員各自による質的分析作業

11 月 4 日 看護学部FD委員会における検討・分析作業

11 月 16 日～24 日 看護学部FD委員による分析結果の再検討と集約

12 月 9 日 学部運営会議における分析結果の報告

#### 5. 結果と考察

表 1 プランニング段階におけるポイントと該当科目数

プランニング段階におけるポイント	該当する科目数
授業に対する効果的な動機づけとその継続のための手だて	3 科目
学生の実態に配慮したわかる授業づくり	5 科目
自主的・主体的学習の促進と学生参加型の授業づくり	4 科目
授業の基盤となる教員と学生相互の信頼関係づくり	4 科目

今回の質的分析により抽出された「プランニング段階におけるポイント」と、該当する科目数を示す(表 1)。7 科目という非常に限られたサンプリングであったため、授業改善を行う上で速効性の高い「具体的で共通性のある内容」を抽出するまでには至らなかったが、複数科目に共通するプランニングの特徴を「ポイント」として示すことができたのではないかと考えられる。また特に、該当する科目の多い「学生の実態に配慮したわかる授業づくり」「自主的・主体的学習の促進と学生参加型の授業づくり」という 2 つのポイントに関しては、昨年度のFD活動において、学生の満足度を高めるための授業改善の重点として確認された「わかりやすい説明」と「学生参加型の授業づくり」という指導方法における改善内容と共通性が高く、これらの内容をプランニング段階から考慮することにより、授業改善をより効率的に行うことができるという可能性が示唆された。